

『緋想の天子』

妖々夢の異変を解決を終えて、緋想天の世界にやってきました。

光琳堂にはいきなり魔理沙が珍入してきて、

「へえ、これが”霊夢”の生き変わりか〜」

と述べ、さっさと去っていく。(キノ)料理を作って置いていく)

この世界では秘書となったレイムは翡翠財閥に潜入した。

そこで翡翠財閥頭首、比那名居テンシが家宝である”緋想の剣”を用いて地震を起こそうとしていた。止めるために戦闘になる。

【レイムVSテンシ】

「あなたは噂の世界の破壊者という巫女からして、壊してみせなさい。私を倒してみなさい。」「また、いいわよ。やってみるわよ。」

テンシは剣を主に使っているのでレイムは「剣には剣ね。新しい力でも試みましょうか。」と妖夢のカードを用いる。

妖夢のFASを用いて、テンシに勝つ。(テンシはやらたときは悦に入る)

テンシは自宅へ帰る最中に魔理沙が突如やって来る。

「”緋想の剣”ってお宝があるんだってな。そいつをあたしに貸してくれないか(盗みにきた)」「はい、そうですかであればるわけないでしょ。欲しかったら、カシくもっていきなさい(テンシはまだ悦に入ると内心喜ぶ)

【魔理沙VSテンシ】

魔理沙はアリスとパチエを呼びだして来る。要所で防御体勢に入ってもイリュージョンレーザーでぶっ飛ばされ、アリスとパチエがオールレンジで攻撃によって隙ができた瞬間に、魔理沙がLASマスタースパークを放ってきたのだ。テンシは負けるが、なんとか”緋想の剣”を魔理沙に渡さず逃げる事ができた。

そのころアキユウとサナエはテンシについて調べていた。

テンシは彼女は親である先代が不遇の事故で早く亡くなった、彼女は若くして頭首になったそうだ。しかし、先代と比べて劣っているためにコンプレックスになっているそうだ。

自宅について頃、テンシは疲れていたのですがそのまま寝てしまふ。そこに誰か入り込んできたのだが、テンシは一切気付かなかった。

翌日、テンシの部屋から”緋想の剣”が無くてなっていたことに気付いたテンシは魔理沙が怪しいと思ってみるが、魔理沙についての手がかりはなく、却下。そこで次に思い浮かんだレイムである。「あの巫女なの。」「とレイムがいるところを探させる。テンシはレイムがいるだろうとされる光琳堂にやってきました。やはりそこには昨日見かけた女がいたのだ。テンシは部屋に入るなり”緋想の剣”について問い詰める。(光琳堂の同一はびっくりする)しかし、そこには剣を盗んだ犯人はいなかったのである。

テンシは落ち込む。

ふと外を覗いたら気候が荒れていた。また緋色の雲が漂っていたのだ。そこへテンシのお目付け役である永江イクが現れ唐突に告げる。

「地震が起ります。頭首様」

『お宝の大地テンシ・スーパー』

” 緋想の剣が盗まれた”と「」気づいたテンシは沈んでいた。そこでレイムは「所詮は親の七光りってことね」と冷たい言葉をテンシに投げかける。言った後にレイムは光琳堂を出て行った。警告を終えたイクはすでにここにはいなかった。テンシは行くかどうか迷っていたが、残ったアキユウとサナエ、リンノスケによって説得され、元凶を叩くために立ち上がる。

一点に紅い雲が集まっているのである。

レイムはそこ向かい進んでいく。がそこに魔理沙が現れ、” 緋想の剣”を手に入れるの私だぜ」「そんなまよりもっと大切なものがあるんじゃないの」とレイムが言うが魔理沙は「そんなものがあるのか」と否定して行く。

レイムは魔理沙を置いて目的地へ

一方、テンシたちも紅い雲が集まる地へ

そこにいたのは先程、目の前にいたイクであった。

「頭首様、あなた様は墮落し頭首失格でございます。変わりに私めが財閥をまとめさせていたたきます。なのでまずこの世界は壊させてもらいます。もし邪魔するといつならお仕置きしなければなりません」と

テンシとして大きなショック受けたたろう。一番身近な人間がこんな裏切りを喰らった。

レイムが到着し

「まさかアンタが元凶だったとはねえ。まあいいわ倒せばいいから」

【レイム・テンシ・サナエvsイク】

レイムはイクの「羽衣は水の如く」を紙一重で碎け、
「あの攻撃鎌みたいね。なまじっつちも鎌でも使ってみようかな」

と小町のカードを用いる。

がサナエはスワコのフォームで対抗するも雷撃の前では意味もなく。防戦一方でテンシは使い物にならなかった。

そこへ魔理沙が来て

「お宝の大切なものって奴を教えるつもりで参戦してやる。」

魔理沙はパチュリーを召喚する。

「また私を呼び出して、今度はどんな用？」

そこへレイムはニュータイプのように閃き

(確かに五行思想ってやつがあったわよね。あいつは雷だから火だから水を使っても意味がないのはサナエが実証済みなら)

「そのあなた確か『土』の属性の魔法を使えたわね？それをあいつにぶつけてくれなさい。」

ときなり不躰にいつてくるが、この状況から何か思い浮かんだ模様だったので使ってもならないかと思いついた。

その攻撃によりイクの手が” 緋想の剣”が手からこぼれる。それを魔理沙がキャッチして、テンシに渡す。

「私にお宝のものと大切なものってものを見せてくれ」
レイムがやってきて

「アンタの両親がどんなにすごい人たちだったか知らないけど、アンタはアンタでしよう。確かに両親に負けてるかもしれないけど、今アンタ自身が自分で自分を認めて認めてもついでに、一杯の酒を飲んで自分自身を認めて認めてもついでに、(いわゆるスーパー名言タイム)

テンシは剣を手にした。

そのときにカードの力が解放される。

「ちやうどへへったいわね」「レイムがFASを使用する。

イクがずいと思いついて攻撃してやうとするが、レイムが発動させたFASで撃退される。

イクは「コンプレックスに悩んでるテンシをなんとかしてあげようと考えたが、いい考えが浮かばず、もつ力づくでやるしかない」と決心したようだ。

「この事件を機にテンシは少し頭首として自覚が多少は目覚めたようである。」

次の世界の背景が映し出される。

「翠夢の世界か
とレイムがつびやへへ

次の世界へ